

〈宇宙の生きた全体・神聖なるもの・癒すもの〉の概念と、 性の禁忌の解放

Greatchain

October 22, 2024

私の尊敬するある宗教指導者の言葉に、「宗教の目的は宗教をなくすることだ」というものがある。これは意表を突く言葉だが核心を突いている。宗教という制度化された教えが宗教なのではない。それは「神の愛」という観念を教えることでもない。そんなものでなく、我々が朝起きて、次の朝にまた起きるまで、神聖なものに絶えず触れていることであり、神の愛の鼓動を感じながら生きていること——それが宗教でなければならない。長く期待された、このよう感じ方の変革が、「今起こっていると思われる。そしてそれが今、多くのユーチューバーたちの実感しつつあるものと思われる。これは今までの歴史で体験しなかったことである。

これはまた非常に微妙な認識の違いの問題でもある。少し前に私はこの欄で、「(人間に忘れられた) 創造者である神の無念を晴らすために、私は生きている」と書いた。そしてこの「神の無念」は「怨念」であってはならない、「怨念」であれば、それは正反対のものになる可能性がある、とも書いた。無条件の愛の神が、恨みの神に変わるということである。

そしてこれは実に不思議なことだが、このユーチューバーたちの伝える変化は、「選ばれた、者」とされる私という人間が、契機になっているしか考えられない。彼らのある者たちは、私にラブレターを送ってくれるが、それが言葉でなく、実体験として自分の身に起こっていることだ、と言っているからである。これは個々のあなたや私ではない。宇宙全体が一体となって、現実に蠢うごめいているということであろう。そして、あなたでも私でもなく、宇宙全体が「愛」として発動し出したということである。こんな不思議なことは今までになかった。

私はこれまで、これを説明するのに、「分け御霊」(神と人間の一体性)という言葉を使ったり、ギリシャ語の holos という言葉が関連語として、whole (全体、数量的 total でない)、holy (神聖な)、heal (癒す)、health (健康)といった言葉を生み出したことに、注意を促してきた。これは宇宙的「愛」としての、切り離せぬ全体だとも言える。これは宗教の宗旨や教えを、はるかに超えた実態である。

宗教の教えや宗旨が間違っているのではない。これは母親の愛を喩えによって説明することができる。よく母親は「出来の悪い」子ほど可愛い、と言ったりする。これは大勢の子どもたちに道德の徳目を教え、優秀な子供を育てようとする優秀な母親が、間違っているのではない。ただそれは社会的な教育の責任といった面からの愛である。神の大きな愛から見たものではない。「出来の悪い」子ほど可愛いのは、親鸞の、善人でなく悪人ほど救いの対象になるという、大きな愛に似ている。

私に愛の告白をする人々は、「どうにも止まらない」エロティックなものを感じるようだが、一方で、私の厳しさや恐ろしさを感じずようでもあり、間違った人生を「あなたとやり直したい」とも感ずるようである。私には経験がないのではよくわからないが、我々の目覚めるようになった神聖な宇宙の愛が、性愛と一つになる境地が求められているような感じがする。

以下は唐突のようだが、年寄りの私の遊びとして理解していただきたい。目くじらを立てられては困る。

まず、徒然草 四十段の、かつて小林秀雄が「鈍刀で彫られたような名文」と呼んだ、簡潔な文章を読んでいただきたい。

因幡の国に、何の入道とかやいふ者の娘、容（かたち）よしと聞きて、人あまた言ひわたりけれども、この娘、ただ栗をのみ食ひて、さらに米（よね）類ひを食はざりければ、かかる異様（ことよう）の者、人に見ゆべきにあらずとて、親、許さざりけり。

次は文体を真似た私の創作である――

〔出べそ奇譚〕――因幡の国に、さる分限者の嫡子とて、若殿と呼ばるる人あり。性、すこぶる奇矯にして、痴呆を装ひ、人をたぶらかすを無上の楽しみとせり。この人、見せられぬ特大の出べそありと、自ら言ひふらしけるを、あまたの人々騙され信じ、これに尾ひれがつきて、この若殿、男女のことも知らぬ痴れ者なりと、噂は広まりぬ。さるほどに嫁取りの話ありて、選ばれたる娘、これを覚悟にて嫁入りたり。床入りとなりて、若殿の申さるるには、「出べそのお前には大儀じゃが、わしの子を産んでくれぬか。」娘驚き、「若様、お言葉ではござりますが、子はへそから生まれるものではござりませぬ。それに私は出べそでもありません」と言ひければ、若殿カラカラと笑ひ、「ああそうじゃった、出べそはわしじゃったな」と言いもて、着物の裾をめくりたれば、美麗なる凹みべその三寸下には、巨大なる逸物、隆々と立ちたるを、娘ただ驚き呆れ、しげしげと眺め入りたりとぞ。